

## ■ 2021年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

### 広告収入

Q：広告収入の前提が保守的な印象を受けているが、今期のタイム・スポット収入やスポットシェアをどう見ているのか教えて欲しい。

- ▶ タイムについて、夏・冬の五輪など大型スポーツ番組の増収を見込んでいるが、レギュラー番組ではアドタイザーの固定費削減傾向が強く、厳しい状況が続いている。
- ▶ スポットについて、昨年上期のコロナ禍の反動もあり大幅な増収を見込んでいるが、期首の想定としてはコロナ以前の水準（19年度）を回復するまでには至っていない。引き続き、様々な施策や積極的なプロモートを行い、シェアアップを目指していく。

### 制作費・東京五輪

Q：21年度の制作費について、単発・レギュラーの前提はどうなっているか？  
また収入が上振れる場合、期中に制作費を増額する想定があるか教えて欲しい。

- ▶ 単発番組は、夏・冬の五輪を始め、10月に北九州で開催される世界体操など、大型スポーツ番組の増加を見込んでいる。
- ▶ レギュラー番組は、前年の一定期間番組制作が出来ず再放送などで対応した反動を見込んでいるが、ベースとなるレギュラー番組の制作費は、引き続きしっかりコンテンツの質を維持しながらコストコントロールをしていく想定だ。
- ▶ 期中の制作費の運用について、できるだけ柔軟な運用をしていきたいと考えているが、業績全般の不透明感も強く慎重に見極めていく。

Q：中期的な制作費の水準についての考え方は？  
コロナ禍を受け大型スポーツ番組の考え方などに変化があれば教えて欲しい。

- ▶ 中期的な制作費の水準について、コンテンツ制作力のさらなる強化のため効果的に制作費を投下していきたいと考えている。しかしながら、テレビ広告市況全般の厳しさもあり適正に判断していきたいと考えている。
- ▶ スポーツ番組に関してはコロナ禍でも基本的な考え方に変化はない。スポーツ番組はテレビのメディア特性に大変マッチするコンテンツと考えおり、今後も取捨選択をしながら放送を行っていく。

Q：東京五輪の業績面での影響をどう見込んでいるのか？

仮に五輪が中止となった場合どのような業績インパクトがあるのか教えて欲しい。

- 21年度の業績予想は、夏・冬とも五輪の開催を盛り込んだ計画となっている。
- 仮に五輪が中止となった場合、業績全般への影響はプラスの面・マイナスの面どちらも見込まれる状況で不透明と言ったところだ。現在は事態の推移を注視しながら、どのような状況でも対応できるよう準備を進めている。

## インターネット

Q：テレビ広告の縮小が見込まれるなか、経営計画でのインターネットなど成長領域の中期的な増収額のイメージを教えて欲しい。

- インターネット分野の成長が業績向上の鍵を握っていると考えている。
- そのため近年ABEMA・TVer・TELASAなどの事業に参画し、インターネット事業を拡大してきた。
- また連結子会社のUltraImpressionも急速に業績を伸ばしている。
- インターネットに関する業務を担当するIoTv局も設置しており、総合的にインターネット事業の成長を目指していく方針だ。

## メディアシティ

Q：有明の土地取得についてかなり大きな不動産投資になると思うが、将来的に本社機能などを有明に移転することになるのか？

- この土地は東京都が公募していたものに入札して昨年の暮れ正式に当社が事業予定者として選ばれたものだ。
- 有明という地区の魅力は東京ビッグサイトなど日本を代表する国際展示場があること、羽田空港東京クルーズターミナルなどの日本の玄関口からのアクセスが良いこと、さらに業務商業機能を中心とした都市開発が急速に進むエリアであることなどがあげられる。
- 今回、敷地面積とタイミングなどの条件が当社のメディアシティ戦略と合致したことなどから土地を取得し、ホールや5G・VRなどの先端技術を駆使したエンターテイメントスペース、それにスタジオ機能なども有する多目的ビルを建設する予定だ。
- コンテンツビジネスの新しい時代を切り開く大きな可能性を秘めている計画と考えており、本社機能をここに移転するような想定はない。

Q：有明の計画について24年度完成以降の業績への影響など話せる範囲で教えて欲しい。

- ▶ 当社グループの広告収入を本業とする事業形態にくわえ、そこから360°展開する大きな情報の発信基地をつくろうと言う計画だ。
- ▶ できるだけ早い時期に黒字化を達成する考えだが、現時点では、業績への貢献について、期待してくださいということでご理解いただければと考えている。

Q：リアルイベントなどの開催が難しいなか、夏祭りを含めたメディアシティ戦略について、戦略の変更や発展などがあれば教えて欲しい。

- ▶ 夏祭りについて、現段階ではリアルイベントとオンラインイベントの混在という形で開催をするべく、政治・行政の判断もにらみながら検討・準備を進めているところだ。
- ▶ メディアシティ戦略では、若葉台メディアセンターを有効活用し、街にテレ朝がやってくるというコンセプトで、この夏から新しいイベントの試みを実施すべく準備を進めている。
- ▶ さらに、先端テクノロジーを有する複数のトッププレイヤーとの協業による、デジタル時代の新しいイベント展開にも取組んでいく計画だ。今年の3月からは六本木けやき坂下において、デジタルアートの先駆けであるチームラボとの協業で、デジタルアートとサウナのコラボレーションイベントを展開している。
- ▶ コロナ沈静化後のことを念頭に置き、異業種との協業や新規事業開発など様々な取組を実施し、今後のメディアシティ戦略に活かしていければと考えている。

## 業績全般

Q：当期純利益が増益計画となっているが内容を教えて欲しい。資産売却など特別利益を想定している場合、得られたキャッシュの使途も教えて欲しい。

- ▶ 今期の業績予想について、当期純利益は前期並みを確保し、その上に利益を積み上げていく計画だ。特別利益として政策保有株式の見直しなどを行う予定。
- ▶ 得られるキャッシュについては、株主還元の重要性に鑑み、まずは配当原資を優先的に確保すること、また有明の情報発信拠点や戦略投資の事業開発等に効率的に活用してまいりたいと考えている。

以上